

新規事業採択時評価結果（平成18年度新規事業化箇所）

担当課：近畿地方整備局都市整備課  
担当課長名：新階 寛恭

事業の概要

事業名	尾上小野線	事業区分	街路	事業主体	兵庫県
起終点	加古川市野口町坂元～ 加古川市野口町長砂	延長	L=0.9km		
<p><b>事業概要</b></p> <p>本路線は加古川市のほぼ中央部に位置し、加古川市臨海部を起点に国道250号、国道2号及び国道2号加古川バイパスを結び、加古川バイパス以北は東播磨南北道路へ接続し、北播磨地域内陸部へ連携している。本事業は国道2号以南L=930mをバイパスの4車線とすることにより、広域ネットワークの形成、渋滞交差点である野口交差点の渋滞解消等を図る。</p> <p><b>事業の目的、必要性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>兵庫県の渋滞交差点解消プログラムに位置づけられた野口交差点の渋滞解消を図る。</li> <li>加古川市の都市計画マスタープランにおいて、環状線道路網を形成する主要幹線と位置づけており、ネットワーク機能の向上を図る。</li> <li>広域防災拠点である鶴林寺公園へのアクセス機能を強化する。</li> <li>歩行者等の安全性の向上を図るとともに、バリアフリーに対応した歩道整備を行う。</li> </ul>					
全体事業費	52億円	計画交通量	25,000台/日		
<p><b>事業概要図</b></p>					

**関係する地方公共団体等の意見**

加古川市においては、都市計画マスタープラン及び道路整備プログラムに位置づけており、早期完成が望まれている。

**事業採択の前提条件**

便益が費用を上回っている。  
円滑な事業執行の環境が整っている。  
(兵庫県社会資本整備プログラム、加古川市道路整備プログラムでの位置づけ有)

事業評価結果

費用対便益	B/C	3.4	総費用: 42億円 (事業費: 42億円, 維持管理費: 億円)	総便益: 141億円 (走行時間短縮便益: 134億円, 走行費用減少便益: 5億円, 交通事故減少便益: 2億円)	基準年: 平成17年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=3.1 (交通量 -10%)	B/C=3.6 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C=3.1 (事業費 +10%)	B/C=3.8 (事業費 -10%)	
		事業期間変動	B/C=3.0 (事業期間 +20%)	B/C=4.0 (事業期間 -20%)	
事業の影響	自動車の影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	○	兵庫県渋滞解消プログラムに位置付けのある渋滞交差点の解消。 【渋滞損失時間の改善】約12万人時/年→約0万人時/年 【1kmあたり(台kmあたり)渋滞損失時間】約12万人時/年台km→約0万人時/年台km 【渋滞度曲線】 【その他の特徴】 ※データは県内平均・全国平均と比較すること	
		事故対策	○	現道交通量が尾上小野線に転換することにより周辺道路の事故減少を図る 【死傷事故率】(死傷事故率比(県内平均比)) 死傷事故率: 239人/億台km(H15年) (事故率曲線における位置: ) 【その他の特徴】 ※データは県内平均・全国平均と比較すること	
		歩行空間	○	広幅員の自転車歩行者道の整備により、高齢者・障害者に配慮した安全で快適なゆとりのある歩行者空間を創出する。	
	社会全体への影響	住民生活	○	現道は交通量が多いうえに歩道が未整備であり危険であるため、自転車歩行者道の設置により安全性の向上を図る。	
		地域経済	○	東播磨南北道路、国道2号及び国道250号を連絡し、幹線道路機能を強化するとともに、東播磨地域の臨海部と内陸部を連携し地域の活性化を図る。	
		災害	○	災害時には、広域防災帯としての機能を有し、地域防災拠点である鶴林寺公園へのアクセス道路となる。	
		環境	○	車道部には低騒音舗装、歩道部には透水性舗装を行い、高木植樹等を実施することにより沿道環境の保全に努めるとともに、渋滞解消によるCO2等の削減に寄与する。	
	地域社会	○	市街地の中環状線、外環状線として都市内道路ネットワークを形成し、交通機能の強化を図ることにより、日常生活圏のアクセス性の向上に寄与する。		
事業実施環境	○	兵庫県社会資本整備プログラム、加古川市道路整備プログラムに掲載			

採択の理由

便益が費用を上回っており、都市計画決定されるなど円滑な事業実行の環境が整っている。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。